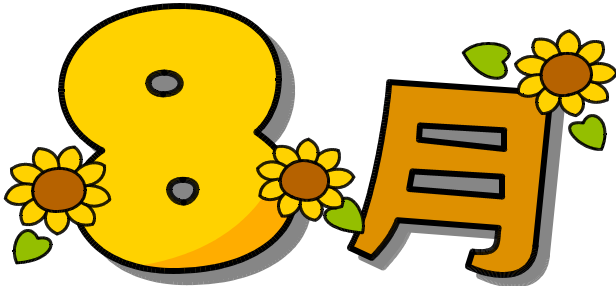




第二ぎんなん便り

社会福祉法人
熊本市手をつなぐ育成会
第二ぎんなん作業所
令和1年8月27日発行
第399号



私の母は大正15年生まれの93歳です。家族と一緒に生活できるのが一番いいかとは思いますが、家族も仕事をしているため、さすがこの歳になると母一人で家で過ごすことは心配で、有料老人ホームにお世話になっています。母がお世話になっている有料老人ホームは、個室で生活しやすい環境ではありますが、それでもスタッフの方の支援がないと身の回りのことは十分にできません。幸い母のお世話になっている老人ホームはスタッフの方の対応がとてもよく、安心して任せられます。が、先日家族の方にお話がありますと連絡があり、「ディサービスを利用していただいています。スタッフが不足しているので、サービスの一つが提供できなくなります」との話がありました。確かに最近面会に行くと、玄関チャイムを押してもなかなか職員の方が出てこられなくなったり、昼食支援をされている方が少なくなっていると感じてはいました。人手不足がいよいよ母の施設まで来たか・・・という感じです。

障害者施設でも基本的には同じ状況になりつつあります。求人雑誌でもいろいろな障害者施設からの求人が掲載されていますが、なかなか応募がないそうです。そういう状況の中、今年の10月から福祉職員の処

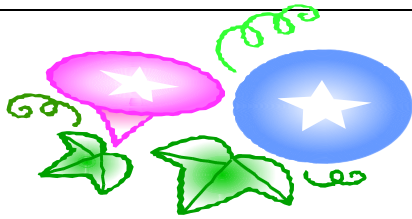
遇の改善を進めるための新しい制度が始まります。それは特定処遇改善という制度です。福祉の現場で働いている方の処遇を向上させるための福祉手当をつけますよという国の制度です。基本的には一般的な産業の平均賃金に近づくように、また、資格を持っている人には手厚く処遇しますということ、職員の資質を高めようという制度です。作業所でもできるだけ職員の処遇改善を図り、利用者さんへのサービス向上ができるよう、8/30の締め切りを目指して、書類作成しているところです。

【暑さ対策】



最近、熱中症で救急搬送される方が増加している報道をよく見ます。作業所でも農耕作業を行っているので、気を付けなければなりません。そこで、作業所の熱中症対策をいくつか挙げてみます。5分～20分毎に水分補給、休憩は行っていますが、十分に日陰が確保できるように、ブルーシートで屋根を作り、簡易休憩所を設置しています。次に作業前には1人1人に、清涼効果のある冷却ミストをスプレーして作業に入ってもらっています。このミストが意外に効果的で、炎天下でも涼しく感じることが出来ます。最後に休憩時には、クーラーボックスに氷で冷やしたタオルを準備しておき、首や肩を冷やすようにしています。とても気持ち良く、身体を落ち着けてく

れます。今後も暑い日がしばらく続いていきますが、熱中症には十分注意しながら、農耕作業に取り組んでいきたいと思います。



【ことばかけに注意】

人は気持ちを伝えるときに大体はことば（音声）で伝えます。それを聞いて理解し行動したり、ことばで返したりします。しかし、知的障害や発達障害の方の中には聴覚情報を苦手とする方がおられます。そういう方にとってはことば（音声）はあまり意味がなく、聞いていても伝わらなかつたり、時にはうるさく感じて耳をふさいでしまわれます。自閉症の方々が言われたことを同じように繰り返して言われることがあります。（反響言語）それは言われていることの意味は理解できなくても、言われたことを繰り返すと、それで済む（逃れられる）からかもしれません。また、ことばで判断せずに周りの状況を見て判断し行動される方もおられます。そういう場合もことばはあまり意味をなしていません。時には理解できないことばを矢継ぎ早に浴びせられパニックを起こされる方もおられます。そうになると、ことばは本人にとっては、暴力的にもなります。過ぎると心を傷つけてしまうかもしれません。そういうことから考えると、その人の特性を見極め、情報伝達の方法を考えた支援を考えていく必要があると思います。作業所の利用者さんを見ていると、一人一人様子が違い、視覚的な情報で動いておられるなどが、伝える意味がなくともことばで話しかけられている方だなど思うこともあります。そういう見極め、対応がサービスでは一番大切な気がします。よかれと

思いことばかけしていることも、発達障害の方を傷つけているかもしれないと振り替える必要があるかもしれません。

【育成会職員全体研修】

17日（土）に3回目となる、市育成会職員全体研修が催され、作業所からは職員6人が参加しました。内容は先ず九州ルーテル学院大学名誉教授の一門恵子先生から「障がいの理解と支援」というテーマの講演でした。先生のこれまでの豊富なご経験、知識をもとに温かみ溢れる優しい語り口でお話をして頂きました。次に西会長が「親の気持ちにより添う」というテーマで講話をされました。職員にとって改めて親の気持ちに寄り添うことの大切さを認識させられました。午後からは高橋統括施設長から「事故防止と危機管理」というテーマで講話とグループディスカッションを行い、障がいのある方々に関わる職員として身につけておかなければならない、安全や危機管理の知識や意識について勉強しました。今回の研修の成果を、今後の支援の充実に活かしていきたいと思います。



全国手をつなぐ育成会熊本大会

- ・期日 11月23（土）～24日（日）
- ・場所 熊本城ホール（新しい施設です）

